

2025

未来へ
つなごう



SDGsとコープデリグループ

コープデリグループのSDGs重点課題

国際社会の共通目標である「持続可能な開発目標（SDGs）」とコープデリグループの理念「CO-OP ともに はぐくむ くらしと未来」が目指す方向は同じです。

「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」は、コープデリグループが重点的に取り組むべき課題と目標を掲げることで、社会における役割と存在意義を明確に示し、SDGs達成に貢献するべく策定しました。

コープデリグループ
理念

CO-OP
ともに はぐくむ
くらしと未来

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



コープデリグループはSDGsが国連で採択される以前から、リサイクル活動やエシカル消費対応商品の取り扱いなど持続可能な社会づくりに取り組んできました。私たちの事業と活動自体がSDGsに沿った取り組みと言えるかもしれません。

SDGs重点課題で掲げた目標は、コープデリグループ単独では実現することは困難です。目標の達成状況、取り組む姿勢を社会に向けて発信することで、組合員や同じ志を持つ企業・団体とつながり、ともに達成を目指していきたいと考えています。



コープデリグループの
マスコットキャラクター
“ほべたん”

未来へ つなごう

私たちは、「未来へつなごう」をスローガンに掲げ、グループ全体でSDGs重点課題の目標達成に向け取り組みを進めていきます。

SDGs 重点課題 01

持続可能な生産と
消費のために

P16-23

持続可能な生産と消費のために、
商品とくらしのあり方を見直していきます



SDGs 重点課題 02

安心して暮らせる
地域づくりのために

P24-31

誰もが安心して暮らし続けられる
地域社会づくりに貢献します



SDGs 重点課題 03

人にやさしく
誇りが持てる
組織を目指して

P32-33

1人1人の人権・多様性が尊重され、
誰もが安心して働ける職場づくりを進めます



SDGs 重点課題 04

100年後の
地球のために

P34-37

再生可能エネルギーの利用・普及を進め、
地球温暖化対策を進めます



SDGs 重点課題 05

世界中の人々の
平和で健康な
生活のために

P38-41

世界から飢餓や貧困をなくし、
世界平和を実現できる取り組みを進めます



CONTENTS

コープデリグループ

エスディー・エス

SDGsの取り組み

コープデリグループは半世紀以上にわたり人と自然が共生する社会と平和な未来づくりに取り組んでまいりました。今後も皆さまとともに豊かな未来をはぐくむためにコープデリグループは新たな試みに挑戦していきます。

02 コープデリグループのSDGs重点課題

06 トップメッセージ

08 特集《特別対談》

「国際協同組合年」を迎えて

国連広報センター 所長 根本 かおるさん × 代表理事 理事長 熊崎 伸

14 コープデリグループのサステナビリティ活動のあゆみ

SDGs重点課題と2024年度の取り組み

16 **01** 持続可能な生産と消費のために
持続可能な生産と消費のために、
商品とくらしのあり方を見直していきます

24 **02** 安心して暮らせる地域づくりのために
誰もが安心して暮らし続けられる
地域社会づくりに貢献します
コープみらい／いばらきコープ／とちぎコープ
コープぐんま／コープながの／コープデリにいがた

32 **03** 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して
1人1人の人権・多様性が尊重され、
誰もが安心して働ける職場づくりを進めます

34 **04** 100年後の地球のために
再生可能エネルギーの利用・普及を進め、
地球温暖化対策を進めます

38 **05** 世界中の人々の平和で健康な生活のために
世界から飢餓や貧困をなくし、
世界平和を実現できる取り組みを進めます

42 サステナビリティデータ

47 ガバナンス・内部統制

48 コープ(生協)について

49 コープデリグループについて

50 コープデリグループの事業と会員生協の活動

編集方針

「コープデリグループ サステナビリティレポート2025」は、SDGs(持続可能な開発目標)を指針とし、コープデリグループの理念・ビジョンと関連付けながら主な取り組みを紹介し、「コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」で掲げた目標と進捗状況を報告します。

【対象者】

組合員・消費者、職員、社員、取引先、地域社会、未来社会

【対象期間】

特に断りのない限り2024年度(2024年3月21日～2025年3月20日)です。

【対象範囲】

コープデリグループ共通の取り組み、会員生協独自の取り組み、コープデリ連合会としての取り組みを対象としています。

【報告数値】

数値は端数処理をしているため、合計値が合わない場合があります。

【発行年月】

2025年7月

コープデリグループ
サステナビリティサイト >



サステナビリティサイト
動画ギャラリー >



コープデリグループの
サステナビリティ
Instagram >



未来 つなごう



トップメッセージ



**「未来へつなごう」を
スローガンに、
助け合いの組織として、
地域共生社会づくりに
参画し続けます。**

代表理事 理事長

熊崎 伸

コープデリグループの事業と活動へのご協力・ご支援に、心より御礼申し上げます。

コープデリグループでは、持続可能な社会の実現に貢献するため、2021年に「SDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～」を定め、「未来へつなごう」をスローガンに取り組みを進めています。理念・ビジョンとSDGsの目指す方向は同じです。私たちは協同組合の特徴と強みを生かし、事業と活動を通じて課題の達成を目指します。

2025年は国連が定めた「国際協同組合年」です。協同組合はSDGsを達成する上で重要なステークホルダーと位置付けられています。こうした中、2025年5月に「国際協同組合年に当たり協同組合の振興を図る決議」が国会で採択されました。「協同組合はよりよい世界を築きます」をテーマに、協同組合の価値を広げてまいります。

世界各地での紛争の激化、自然災害の発生、物価高など、私たちの暮らしを取り巻く環境は厳しさを増しています。2024年に日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞されました。会員生協では、核兵器廃絶を求める署名や地域の戦跡巡りなど、さまざまな平和活動を進めています。2025年は被爆・戦後80年。平和の尊さを再確認し、活動を次世代に受け継ぐ取り組みを広げてまいります。

2024年の能登半島地震・豪雨災害では、組合員の皆さまよりグループ全体で7億円を超える募金をお寄せいただきました。全国の生協からの募金と合わせ、被災者への支援に役立てられています。被災地で奮闘するコープいしかわへの職員派遣を継続し、今後も支援を続けてまいります。

この50年で、主食であるお米の生産が減少しています。お米に限らず、食料自給率の低迷や資材高騰、気候変動、後継者の不足など、日本の農畜水産業を巡る状況は厳しさを増しています。安全で安定した食品供給を実現するには、何より生産者が安心して生産できる環境が不可欠です。コープデリグループでは、生産者の想いやこだわりを知り、生産者を応援する取り組みを進めています。これからも持続可能な生産と消費の実現を目指し、SDGsの達成に貢献します。

コープデリ連合会は、これまで積み重ねてきた会員生協との連帯を基盤に、会員生協の事業・活動を支え、より強靱なコープデリグループの構築を目指します。生産者・取引先の皆さまのご協力のもと安定調達に努め、事業と活動の総合力で組合員の暮らしに貢献します。行政・諸団体の皆さまとのパートナーシップを大切に、「ともに」の力で笑顔の明日を迎えられる社会を目指してまいります。

コープデリグループ理念

CO-OP

ともに はぐくむ 暮らしと未来

コープデリグループ ビジョン2035

食べるしあわせ、自分らしい暮らし 「ともに」の力で、笑顔の明日を

私たちは、助け合いの心と協同の力が生み出す「ともに」の力で
未来をきりひらき、誰ひとり取り残さない社会を創ります

食の安全と安心を第一に、生産から消費のつながりをより豊かにし
おいしさ、健やかさ、楽しさ、便利さなど
それぞれの **食べるしあわせ** を叶えます。

さまざまなライフスタイル・ライフステージに寄り添った
商品やサービス・多彩な活動で、**自分らしい暮らし** を実現します。

人を大切に多様性を認め合い、学びと対話を重ねながら
願いをかたちにする組織 を目指します。

地域の課題と、環境や平和などの地球規模の課題に向き合い
さまざまな組織・団体とつながり
次世代に笑顔が続く社会 の一翼を担う存在になります。

※ビジョン2035は、組合員・働く仲間がともに掲げる2035年のありたい姿を表したものです。



対談

「国際協同組合年」を迎えて

国連は、2025年を「国際協同組合年」と定め、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けて協同組合の価値の認知を高めることを求めています。協同組合は、生協をはじめ、農協、漁協、労働者協同組合、信用組合など、共通の目的を持つ人々が集まって協力し合い、より良い生活を目指す組織です。

2025国際協同組合年の意義と、コープデリグループが社会から求められる役割について、国連広報センターの根本所長にお話を伺いました。



国連広報センター

所長

根本 かおるさん

コープデリ生活協同組合連合会

代表理事 理事長

熊崎 伸

SDGs達成に向けた協同組合への期待

熊崎 2023年11月の国連総会第47回本会議で2025年を国際協同組合年とすることが宣言されました。2012年以来2回目となり、大変光栄であるとともに身が引き締まる思いがいたします。

根本 2025年はSDGsのゴールまで5年という節目の年です。その節目に2回目の国際協同組合年が定められたことには、SDGs達成への大きな期待があります。

熊崎 その期待についてお話しいただけますか。

根本 まずはSDGsの現在地からお話ししましょう。SDGsは2015年9月の国連総会で採択され、2016年1月1日に発効されました。2030年までに持続可能な世界をつくるのが目標です。採択から10年が経過しましたが、現在はピンチに陥っています。SDGsは17のゴールの下に169のターゲット（目的）を掲げていますが、

国連は2024年の報告書の中で169のターゲットのうち順調なのは17%にすぎないと発表しています。

熊崎 厳しい状況ですね。

根本 2019年にSDGサミットが開催され、取り組みを加速するために、2020年から2030年までを「SDGs達成のための行動の10年」と決めました。ところが、その矢先、新型コロナウイルス感染症により世界が大きな打撃を受け、貧しい国々ではその影響が今も尾を引いています。その後ウクライナ戦争が勃発し、食料やエネルギー価格が高騰しました。経済格差はさらに広がり、気候変動はますます深刻です。またAI技術の発達により、国際社会の信頼が損なわれてしまうような誤った情

報も蔓延^{まんえん}しています。そして圧倒的に資金が足りない。先進国にも余裕がなく援助に回せる資金がないのです。

そういった状況下で、経済・社会・環境のバランスの取れた形で、利益優先型経済では取り残されてしまうような人たち(女性、若者、高齢者、障がい者など)の社会参加を促し、経済的地位の向上を目指して活動する協同組合という存在に、改めて熱い期待が寄せられているのです。

熊崎 ありがとうございます。自分たちが所属する協同組合にどのような価値があるか、わかりにくいものですが、改めてこのように言ってもらえると、期待に応えようと力が湧いてきます。

数字で見る協同組合

日本の組合員数

1億835万人

(複数の協同組合に加入している場合は重複して計上しています)

世界の組合員数

10億人

日本の購買事業

協同組合の食料品・
生活用品供給高

4兆円

日本の販売事業

国内農林水産業産出額の

半分超

が協同組合を通じて
出荷・販売

日本の信用事業

国内の預貯金額の

22%

が協同組合へ
預けられています

世界の協同組合数

300万組合以上

世界の上位300の協同組合

事業高合計

2兆4,000億米ドル



「2022事業年度版数字で見る日本の協同組合統計表」(日本協同組合連携機構)より

気温上昇を止めるために個人でできる10の行動

熊崎 国連ではどのような取り組みをされているのでしょうか。

根本 SDGsがピンチと申し上げましたが、国連では仕組みレベルでの変革に力を入れています。現状を打破するゲームチェンジャー（流れや状況を大きく変える存在）になるようなインパクトの大きなことに、加盟国の政府と一緒に取り組もうとしています。その中で6つの領域の変革を掲げました。食料システム、気候変動・生物多様性の保全などの環境対策、デジタル化、教育、再生可能エネルギー、社会保障と雇用です。

食料システムを1番最初に掲げ、原料の生産から消費そして廃棄まで、サプライチェーンの全てを持続可能なものに変革しようとしています。食はそれほど波及効果が大きいのです。

コープデリグループのビジョン2035でも「食べるしあわせ」と、食を中心に据えてくださっていると拝読しました。

熊崎 ビジョン2035は、若手職員31人のワーキングチームを中心に、組合員の意見を取り入れながら策定しました。「食べられる」ではなく「食べる」でいいのかと、随分、議論をしました。食べるときに産地や生産者、製造者などさまざまなことに思いを寄せ、大きな意味で、食べることで皆がしあわせになれる、そんな世界をつくりたいと掲げたものです。

根本 国連では気温上昇を止めるために「個人でできる

10の行動」を提案し、世界中に呼びかけています。廃棄食品を減らすであったり、環境に配慮した製品を選ぶといったことも呼びかけています。いずれも国連のさまざまな統計やデータに裏打ちされており、簡単にできることをピックアップしてまとめたものです。



熊崎 呼びかけと取り組み

は生協の出番かもしれません。生協は事業者であり、日本最大の消費者団体でもあります。事業活動と消費行動の相乗効果を生み出せることが強みです。コープデリグループには、540万人の組合員と2万5000人の役職員がいます。一人ひとりの組合員と役職員が、社会や環境のために「私は何ができるだろう?」と、ともに考え、行動することも、国際協同組合年として期待されているのではないのでしょうか。

根本 もちろんそれもあります。生協は組合員さんのくらしに寄り添いながら、SDGs推進の旗振り役も担える存在です。

熊崎 次の未来のために、組合員とともに学び、一歩、踏み出せるように頑張っていきます。

国際協同組合年とは

国連は、平和や人権など特定のテーマや問題に焦点をあて、世界中の人たちの意識を高めたり、行動を促したりすることを目的として「国際年」を制定しています。

2025年は「国際協同組合年」と定められ、協同組合が人間らしい仕事の創出や、すべての人が参加できる社会

づくりなど、さまざまな分野で持続可能な開発目標 (SDGs) に貢献していることが評価され、その認知度向上と振興が図られます。

コープデリグループは国内の協同組合と連携し、協同組合の価値や役割について学び、実践し、発信していきます。

国際協同組合年における私たちの活動例

学 び

国際協同組合年について学び、身近な人たちと共有してみる。
協同組合らしさ
(アイデンティティ)を学ぶ。

実 践

みんなで話し合い、
つながりを広げて、
できることから始めてみる。

発 信

学んだこと、実践したことを
周囲に伝え、
地域のつながりを広げていく。

持続可能な社会をつくるエシカル消費

根本 コープデリグループはエシカル消費にも力を入れておられますよね。作り手の人権、環境に配慮したものを買って、それをくらしの豊かさにつなげる。私は買い物は楽しいことだと思います。その楽しさを作り手あるいは流通に携わる方々の幸せにもつなげることができるのはエシカル消費のすばらしさです。

熊崎 エシカルのお話をいただいたので、コープデリグループの取り組みを紹介させてください。一つは産直米の産地、新潟県佐渡市で2010年にスタートした「佐渡トキ応援お米プロジェクト」です。「CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリ」と、その



加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付し、トキやささまざまな生きものと共生する環境にやさしい農業を応援しています。ほかにも、もずくの売り上げの一部を沖縄県伊平屋村の「美ら島^{ちゅしま}応援基金」に寄付する「美ら島応援もずくプロジェクト」もあります。これらは商品の利用を通じて、持続可能な農業や水産業を応援することができます。

根本 生協は一つのメディアだと私は思っているんです。背景にある生産者の物語だったり、地域にもたらす効果の話であったり、組合員の皆さんはそういうことを知って、対価である商品代金を支払います。

田んぼを耕作放棄地にしないために飼料用米を栽培し、豚の餌にする事業もされていますね。

熊崎 2008年から取り組む「お米育ち豚プロジェクト」です。飼料用米を栽培し、餌に配合して豚を育てています。肉にはほのかな甘みがあり、味もいい

と評判です。

根本 ストーリー性だけではなく、おいしさも大切ですよ。

熊崎 もちろんです。おいしくないと利用していただきません。飼料用米の生産者、配合飼料の製造会社、集荷業者などさまざまな人たちが携わり、組合員が利用し、また次の豚を育てる循環型のしくみが完成しています。

根本 農業を下支えし、次につなげる意義のある取り組みですね。

熊崎 北海道・足寄（あしよろ）町で「産直はなゆき農場有機牛」という持続可能な畜産業にもチャレンジしています。有機牛の生産は飼育条件、飼料、健康管理など厳しい有機JAS基準があり、新たにはじめるには生産者の負担がとても大きい。コープデリグループは預託という形で、子牛を買い取り、預託料をお支払いし、生産者が牛の肥育に専念できるよう支援しています。成長した牛は優先的にコープデリグループに出荷され、組合員に販売する取り組みです。

根本 その牧場では何頭くらいの有機牛を飼育されているのですか。

熊崎 すでに60頭になっています。埼玉県出身の若手女性生産者が、このはなゆき農場の代表として取り組んでいます。若手生産者を支援することで日本の畜産業を応援し、環境にもやさしい飼育をする一石三鳥ぐらゐの取り組みです。

根本 女性支援にもつながるすばらしい取り組みですね。





産直はなゆき農場有機牛

熊崎 コープデリグループではエシカル消費に対応した商品を2030年までに全商品の20%にすることが目標です。開始した2019年には10%でしたが、23年までで16%に達しました。あと一息、ぜひ達成させたいと思います。

根本 サスティナビリティは我慢ではなくて生活を豊かにしてくれるものだと思いたいです。その意味では情報を発信するメディアが、大切なパートナーになります。国連にはSDGsに熱心に取り組む世界のメディアとの連携の枠組みがあります。約400社が参加していますがそのうち220社が日本のメディアです。SDGsが社会にこれだけ浸透したのも、メディアが多様なキャンペーンをしてくださったおかげです。私たちにとってはメディアは情報を発信し、人を巻き込む上で非常に重要です。これだけ高まっているSDGsへの関心をテコにして、メディアの力で多くの人を巻き込み、この危機を乗り越えたいと考えています。

熊崎 さきほどの「個人でできる10の行動」にも電気自動車への乗り換えなど、気候変動対策のために理解と覚悟が必要なことも書かれていますね。

根本 気候変動は、多くの人に大きな影響を与えています。生産者が作物をつくり続けられなくなるなどの影響もありますか。

熊崎 さまざまな影響があります。猛暑や豪雨による農産物の産地適性の変化や対策への農家の負担増加、そして不作は価格高騰につながり、更には国産品が手に入らなくなる未来も考えられます。気候変動による産地の変化を、組合員にしっかり伝えていくことも、生産者を守ることに繋がります。

ですので、意識的に取り組んでいかなければと考えています。

生協は助け合いの組織

熊崎 気候変動は異常気象による災害も引き起こしています。各地で災害が発生した際には募金に取り組んでいます。過去の台風・大雨被害や、昨年の能登半島地震などの災害では組合員から多くの募金が寄せられました。

根本 困ったときはお互いさま。組合員さんは相互扶助の精神が強いのでしょうか。

熊崎 生協は助け合いの組織です。寄付の形も多様で、コープデリグループのコープみらい・いばらきコープ・コープぐんまでは、高校生を対象にした奨学金給付事業を行っています。これは組合員が奨学金応援サポーターとなり毎月一口100円単位で寄付をし、組合員のひとり親家庭などの高校生に奨学金を給付する事業です。組合員が組合員を応援する輪が広がっています。

根本 誰一人取り残さないというSDGsの理念に沿った素晴らしい事業ですね。小口で大勢の人たちが支えるというのも、持続可能な支援の形だと思います。



平和の大切さを次世代につなぐ

熊崎 ウクライナ、ガザ・イスラエル人道危機のための募金も実施しました。日本の人たちも本当に人ごとではなく、我がこととして平和に対する関心が高まったのではないのでしょうか。

根本 核兵器廃絶運動を続けてきた日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が、2024年のノーベル平和賞を受賞しました。最初は被爆者として被害者だった人たちが、サバイバー、生き抜いた人になり、今はピースビルダー、平和をつくる人になりました。たくましさと再生力を持つ姿に感銘を受けました。

国連では9月26日を「核兵器の全面的廃絶のための国際デー」と定めています。これは日本にとって次世代につないでいかなければならない重要な日です。平和の大切さをつなぐことは、SDGsが達成された後の世界にもとても大切です。

熊崎 全国の生協は、平和活動「ピースアクション」に取り組んでいます。コープデリグループの組合員も、広島、長崎、沖縄で行われるピースアクションに毎年参加しています。最近では、テレビのニュースなどを見て関心を持った学生が1人で申し込むことも少なくありません。こういった若い世代に平和をつないでいくことも、生協の役割だと思っています。

根本 ウクライナやガザのすさまじい破壊の映像ばかりが伝わってくる中で、やはり平和があつてこそ暮らしが成り立ち、くらしはまた平和を支えるというコインの表と裏みたいな関係だと一般の方々も感じているのではないかと思います。2025年は戦後80年の節目の年でもあります。若い力はとても重要です。

熊崎 平和も含め、次世代につないでいく大切さは、ビジョン2035でも掲げています。

"「ともに」の力で、笑顔の明日を"は、コープデリグループだけでなく、さまざまな組織・団体とつながって、地域の課題と環境や平和などの地球規模の課題に向き合い、次世代に笑顔が続く社会の一翼になりたいという想いを込めました。

私たちは理念の中に、豊かなくらしの基盤に平和は欠かせないもの、くらしを守る生協だから平和活動をしていく想いを込めています。その理念を大切に、国際協同組合年の出発点にできたら

いいと思います。

根本 国連も同じです。2つの世界大戦を経て生まれた組織で、今年80年になります。大変幅広い課題に取り組んでいる組織ではありませんけれども、1番の存在理由はやはり平和です。2025年は世界にとって大切な年です。非常に重要な年に、国際協同組合年が定められたと感じています。

熊崎 最後に、生協は助け合いの組織であると同時に、学びの組織でもあることをお伝えしたいです。人は学ぶと責任が芽生えます。学ぶことが、一人ひとりの行動を変えることにつながるのです。学びを大切に、よりよい社会にしていけるために、「ともに」の力で協同組合ならではの価値を発揮したいと思います。

根本 さきほど国連がメディアとネットワークを作っているお話をしましたが、生協の場合、組合員さんや組合員さんが持つネットワークで多くの人とつながることも大切になりますね。

持続可能な社会の実現のために、ぜひ、連携していきましょう。

熊崎 2025国際協同組合年を迎え、私たちの活動がより多くの人々と、ともに学び、成長する機会となることを願っています。平和で笑顔あふれる未来を次世代につなげるために、ともに力を合わせていきたいと思っています。

本日は貴重なお話をありがとうございました。



ピースアクション in オキナワ

コープデリグループの サステナビリティ活動のあゆみ

コープデリグループの会員生協の歴史は、一人ひとりの力は小さいけれども、地域の人々が話しあい、協力しあって、くらしや地域をより良くしようとしてきた活動に満ちあふれています。その活動はSDGsが掲げる目標そのものです。時代が変わっても、人々がくらしの豊かさを願う気持ちは変わりません。私たちはこれからも、くらしに関するコミュニケーションを広げ、国際社会の相互理解を基礎とした平和を追求し、人が自然と共生できる社会システムづくりを通して、持続可能な社会をつくり、次世代へ継承していきます。



16 1940年代～ 地域の中で急速拡大

いずれの生協も、それぞれの地域で暮らす人々が、手を取り合って設立した生協が源流です。組合員は、公正な価格で商品を購入したい、安全な食品を食べたい、環境への悪影響を減らしたい、そして、平和な世の中を追求したいなど、さまざまなくらしの願いを実現するために、一步一步進んできました。

1947高階村生協、1949登戸生協、1957桐ヶ丘団地生協（いずれもコープみらいの前身）設立
1949長野電鉄生協、1953長野県学校生協、1955飯田生協（南信生協）、1967長野生協、1975長野県民生協（いずれもコープながのの前身）設立
1955新潟県勤労者福祉対策協議会、1986市民生協にいがた（いずれもコープデリにいがたの前身）設立
1956桐生中央消費生協（コープぐまの前身）設立
1971水戸市民生協（いばらきコープの前身）設立
1973宇都宮市陽南地域生協、1974宇都宮市民生協、1977安佐市民生協、1978足利市民生協、1978栃木県南生協（いずれもとちぎコープの前身）設立

1960 くらしを守る価格への挑戦CO・OPバター（コープ商品第1号）誕生



1966 生協の環境や社会に配慮した商品開発の先駆け、衣料用洗剤「CO・OPソフト」発売。組合員アンケート、5000人による使用テストを実施



1979 「バケツ1杯の水」を贈る運動としてユニセフ募金の取り組み開始

1979 「本場の味を日本の食卓へ」コープイタリアとの提携で「CO・OPイタリアアスパゲッティ」誕生



12 1980年代～ 活動が社会を動かす力に

はじめは地域の中で活動してきた生協も、生協運動の高まりとともに拡大していきます。環境問題や、食の安全性確保の活動が広がる中、独自のコープ商品の開発・普及に、多くの組合員が参加しました。小さな生協同士の組織合同も進み、組合員による活動は社会を動かす大きな力となりました。

1980年代 牛乳パックリサイクル運動を開始

1983 牛乳パックリサイクル運動の再生紙を使ったコアノンロール発売



1990 日本で初めて「ステイオンタブ缶」の商品をCO・OP商品で開発



▶ 1995 「容器包装リサイクル法」が制定

1996 「地震災害等に対する国民的保障制度を求める」署名運動の全国実施

▶ 1998 「被災者生活再建支援法」が制定

2001 「食品衛生法改正と充実強化を求める請願署名」の全国実施

▶ 2003 「食品安全基本法」が制定

連帯による新たな挑戦

連帯の動きは県域を越え、事業連合への加入を通じて多様な取り組みが展開されました。

1995年のICA（国際協同組合同盟）総会では協同組合の定義、価値、7つの原則が定められました。社会における生協の役割が大きくなる中で、食を中心に地域社会において着実な活動を続けてきました。

- 1986 **北関東協同センター設立**
- 1992 **コープネット事業連合（現コープデリ連合会）設立**
- 2006 グループ共通の「理念」、「2015年ビジョン」を制定 
- 2007 新しいグループシンボル「グリーンバルーン」と宅配事業ブランド「コープデリ」、グループキャラクター「ほべたん」を発表 
- 2008 「CO・OP手作り餃子」重大中毒事件発生
- 2008 **ハッピーミルクプロジェクト、お米育ち豚プロジェクト開始** 
- 2009 「日本を食卓から元気にしたい。」のメッセージを発表
- 2010 **佐渡トキ応援お米プロジェクト、美ら島応援もずくプロジェクト開始** 
- 2011 「東日本大震災」発生。緊急支援物資の提供職員・組合員ボランティアによる復旧・復興支援、「東日本大震災復興支援募金（2011～2019）」などを実施

くらしの願いを未来へつなぐ

2度の国際協同組合年の宣言、2016年「協同組合の思想と実践」のユネスコ無形文化遺産登録など、協同組合は世界的に認知されてきました。

コープデリグループは事業と活動の総合力で、地域への貢献と持続可能な社会づくりに、これからも歩みを進めてまいります。

▶2012 国連が定めた国際協同組合年

- 2013 ミールキット(そろってGood!)開発
- 2014 コープネットグループのめざす姿「ビジョン2025」策定

▶2016 「協同組合の思想と実践」がユネスコ無形文化遺産に登録

- 2017 コープネット事業連合を**コープデリ連合会に組織名称変更**
- 2017 「コープデリでんき」事業開始
- 2018 **コープデリ商品検査センターを移転・拡張し開設** 

- 2021 「**コープデリグループのSDGs重点課題～2030年までの長期目標と中期方針～**」を策定

未来へつなごう

- 2022 **産直はなゆき農場有機牛を発売** 

- 2024 コープデリグループ「**ビジョン2035**」を策定 

▶2025 国連が定めた2回目の国際協同組合年

01



持続可能な生産と消費のために



佐渡トキ応援お米プロジェクト
JA佐渡 産地交流・研修会

持続可能な生産と消費のために、 商品とくらしのあり方を見直していきます

- 1 人や社会、環境に配慮した商品を選んで使うエシカル消費に対応した商品の開発と拡大・普及を推進し、2030年度までに2019年度供給高構成比2倍を目指します。あわせて、消費者(組合員)にエシカル消費への共感と行動を広めていきます。
- 2 コープデリで取り扱う商品について、原料調達から生産・消費までを通して、人権や環境などに配慮した「責任ある調達」ができるよう取り組みを進めます。
- 3 産地とパートナーシップを深め、持続可能な農水畜産物の生産・消費に貢献できる取り組みを進めます。
- 4 事業における容器包装と資材の使用量を削減します。プラスチックは、2030年までに2018年度比25%削減します。家庭でできるプラスチック・容器包装削減の取り組みを進めます。
- 5 サプライチェーン全体における食品廃棄物、食品ロスの削減を進めます。食品廃棄物は2030年までに2018年度比50%削減します。家庭での食品ロス削減を進めます。

生きものにやさしい米づくりで、佐渡をトキのふるさとに ～佐渡トキ応援お米プロジェクト

詳細はこちら



コープの産直米の産地、新潟県佐渡市では、トキをはじめとするさまざまな生きものと共生する農業に取り組んでいます。2010年にスタートした佐渡トキ応援お米プロジェクトは、「CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリ」とその加工品の売り上げの一部を「佐渡トキ環境整備基金」に寄付し、トキやさまざまな生きものたちと共生する、環境にやさしい農業を応援する取り組みです。2024年度は345万558円を寄付しました。

佐渡のお米を食べることが、生きものを育む環境づくりやトキと共生するお米作りの応援につながります。



寄付額累計

3,972万2,653円



伊平屋島がこの先もずっと、美しい島でありますように ～美ら島応援もずくプロジェクト

詳細はこちら



コープの産直もずくの産地、沖縄県伊平屋島には、ウミガメがやってくる白い砂浜や美しい海が今も残っています。その自然環境のもと、良質なもずくが育てられていますが、近年、海から砂浜へ大量のごみ流れ着き大きな問題となっています。

2010年よりスタートした美ら島応援もずくプロジェクトは、もずくの売り上げの一部を伊平屋村「美ら島応援基金」に寄付し、漂着ごみの運搬・処理など、自然環境保護活動に役立てる取り組みです。2024年度は216万3,698円を寄付しました。

伊平屋島のもずくを食べることが、島の自然環境を守り、その美しさを保つことにつながります。



寄付額累計

2,118万9,964円



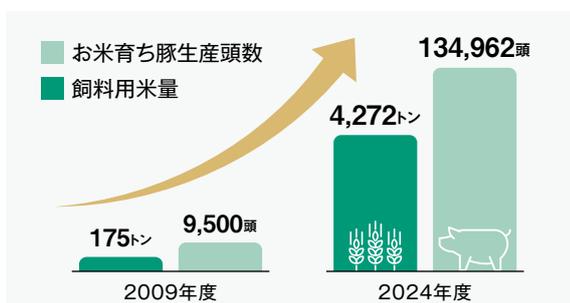
日本のお米づくりをささえる、お米育ちの産直豚 ～お米育ち豚プロジェクト

詳細はこちら



日本のお米の消費量は50年前に比べ半減しています。2008年にスタートしたお米育ち豚プロジェクトは豚のエサ用のお米「飼料用米」をつくり、豚に飼料用米を食べさせることでお米の消費量を増やす取り組みです。

お米育ち豚を食べることが、日本の食と農業、そして畜産業を元気にすることにつながります。



飼料用米を生産する田んぼ面積

712ha

(1haあたりの収穫量6トンで算出)



エシカル消費拡大に向けた取り組み

誰かの笑顔につながるお買い物 ～エシカル消費

コープデリグループは、地域や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買う「エシカルなお買い物」を積極的に応援しています。

エシカルとは、直訳すると「倫理的な」という意味です。自分視点だけでなく、環境や社会など他者への視点をプラスして買い物をすることができるよう、有機JAS、フェアトレード、レインフォレスト・アライアンス、MSC、ASC、MEL、FSC、RSPO、エコマークなどの認証・認定商品をはじめ、寄付金付き商品の取り扱いや日本の農畜産業を応援し食料自給力を高めていくため飼料用米の活用を進めています。

※認証マークについてはP43を参照。



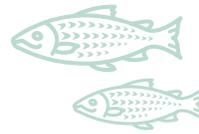
詳細はこちら



エシカル消費対応商品供給高

1,046億円

あらたな持続可能な養殖のかたち「陸上養殖」 ～おかそだちサーモン®



詳細はこちら



持続可能な養殖方法として注目されている陸上養殖は、水質や魚の健康といった環境をコントロールしながら育てることができ、おかそだちサーモン独自の水を循環させる「閉鎖循環式陸上養殖システム」は、海を汚さない養殖方法です。また、魚病リスクがないためサーモンに抗生物質を使用していません。

千葉で育てられるサーモンは、凍結せず新鮮なままお店に届けられます。現在は生産量が少なく一部店舗での取り扱いですが、新たな養殖プラント建設を受け、今後は多くの組合員へお届けすることを目指しています。



おかそだちサーモン取扱い
(原料ベース)

11.3トン

有機JAS認証平飼い放牧鶏卵を産直でお届け ～CO・OP産直黒富士農場オーガニックたまご



詳細はこちら



2024年6月から、日本でも数少ない有機JAS認証鶏卵を生産する「農業生産法人黒富士農場」を産直産地に指定しました。

採卵鶏での有機JAS取得は非常に難しく、鶏の食べるもの、飲むもの、暮らす場所、全てにおいて厳しい基準が設けられています。山梨県甲斐市の山懐、標高1,100mに位置する農場の豊かな自然環境のもと、平飼い放牧される鶏たちは鶏舎と放牧地を自由に行き来し、のびのびと過ごしています。



販売実績

9万5,102パック

※宅配で取り扱っています。



牛も人も幸せになれる。そんな牧場にしたい ～ 産直はなゆき農場有機牛 ～

コープデリグループは、産直はなゆき農場有機牛を通じて、持続可能な食料生産を目指すとともに、若手生産者を支援しています。有機JASの認定基準に沿った生産管理のためには、飼育条件、飼料、健康管理など高い基準が要求されます。この有機牛の生産へのチャレンジを、コープデリが子牛を買い取り、はなゆき農場に育成を預託することで支援しています。

埼玉県出身で牛とも動物とも関係のない生活を送っていましたが、大学で畜産学科に進み、そこから動物が好きになりました。就職時に、何か体を動かす仕事をと軽い気持ちで牛飼いになりました。最初はどの牛も同じに見えていたのに、今ではそれぞれの特徴が見えてきて面白いです。牛と会話はできませんが、牛の気持ちに寄り添えるようになった気がしています。

「はなゆき農場」の代表となって有機牛の生産に取り組む中で、将来はここが有機の牧場の拠点になるようにと考えています。牛は草を食べて育つので、草地の活性化や土も重要です。有機JAS認証では、一般的な飼養管理と分けて管理する点も多く、今は有機飼料を確保することにも力を注いでいます。

私たちが飼養している日本短角種という和牛は母牛の母乳で育てることが多いため、子牛が親牛の愛情を受けている期間も長いと私は感じています。そこで、はなゆき農場のロゴマークも、お母さんが優しく子どもを包み込むような温かいロゴマークにしました。

牛も人も幸せになれる。そんな牧場にしたい、それが私の願いです。



株式会社はなゆき農場 代表取締役
中村 梢乃さん



農場のロゴマーク



子牛購入頭数(累計)

85頭

詳細はこちら

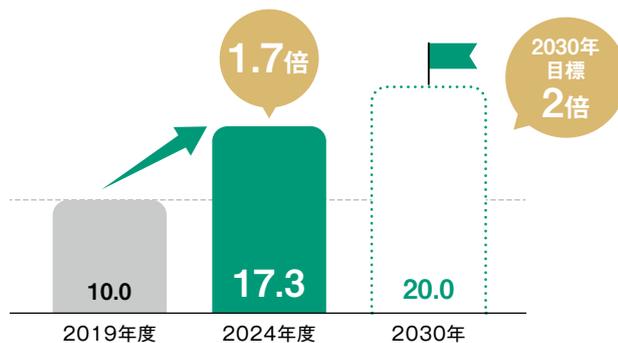


目標の到達状況

2030年目標

エシカル消費対応商品の
供給高構成比を
2019年度比で2倍にします。

※単位：% (供給高構成比)



01 持続可能な生産と消費のために

02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和で健康な生活のために

詳細はこちら



「もったいない」を減らしたい ～食品ロス削減の取り組み

食べられるのに、食べることなく捨てられてしまう「食品ロス」。日本の食品ロスの量は年間472万トン*と推計されています。コープデリグループでは、食品ロス削減につながる商品の販売や、事業での食品廃棄物の削減、余剰食品のフードバンクへの寄付などに取り組んでいます。また、「てまえどり」や季節商品の予約購入の呼びかけ、食品ロスに関する学習会の開催など、組合員とともに食品ロス削減に取り組んでいます。*農林水産省「令和4年度推計」より



事業からのフードバンクへの寄付
(物流予備品等)

58トン

からだにも環境にもやさしいアップサイクルのスープ ～コープデリ・ワンディッシュスープ

さまざまな商品を製造する際に発生する、原料の未利用部分。たとえばパッケージサラダの製造過程で発生したキャベツの芯や、ジュース製造過程で発生したにんじんやりんごのパルプなどは、これまで廃棄されていました。コープデリミールキットの副菜として販売しているコープデリ・ワンディッシュシリーズのスープは、これらの未利用部分を活用し、滋味深い野菜のおいしさを引き出しました。

2023年6月のシリーズ販売開始から、季節感のあるスープなど楽しさを感じられるラインナップを拡充して、組合員から好評の声をいただいています。



販売実績



45万5,071パック

不揃いやキズがあっても大事にしたい ～規格外農産物の取り扱い

ちょっとしたキズ、サイズの違いで規格外となる野菜や天候被害を受けた果物は、商品として流通させることが難しく、多くの場合、加工用に回されたり廃棄されたりします。

コープデリグループは見た目は劣っても味には影響のない農産物を、理由を伝えて販売しています。育ちすぎたにんじんや軸の取れたしいたけ、表面にキズの付いたりんごでも生産者が大事に育てたおいしい商品です。また、畑で採れたトマトを選別せずにさまざまな形のものを丸ごとお届けするなど、産地と組合員のつながりの中で生まれた商品も、今ではコープの人気商品です。



天候被害果・規格外農産物供給高

56.9億円

生産から消費の流れ全体の食品ロス削減を目指して ～ 店舗への商品納品期限の緩和 ～

日本には、小売店への納品期限を賞味期限の3分の1までとする1/3ルールという商習慣があります。その納品期限を過ぎた商品は小売店に出荷できないため、食品ロス発生の一因といわれています。

コープデリグループの店舗では、2025年3月から、賞味期間120日以上の商品まで対象を拡大し、賞味期間の1/2まで受け入れることとしました。 ※宅配は賞味期間にかかわらず、1/2ルールを基本としています。

食品ロス削減の視点から、以前より納品期限を延長して対応してきました。ただ、店舗では各お取引先との関係や、店舗での作業影響などがあり、賞味期間180日未満の商品を対象に1/3ルールの運用をしてきました。

しかしここに来て、食品ロスの問題とあわせて、物流の2024年問題というもう一つの課題も浮かび上がってきました。これは店舗でもなんとかしなくてはと、物流の担当、商品部の担当などとも協力して、納品期限の延長の実験を行いました。実験の結果では、納品期限の延長によりメーカーでの在庫管理が改善され、納品トラックの待機時間の大幅削減などが見られました。業務上問題のないことを確認しながら、実運用に向けて調整を行いました。

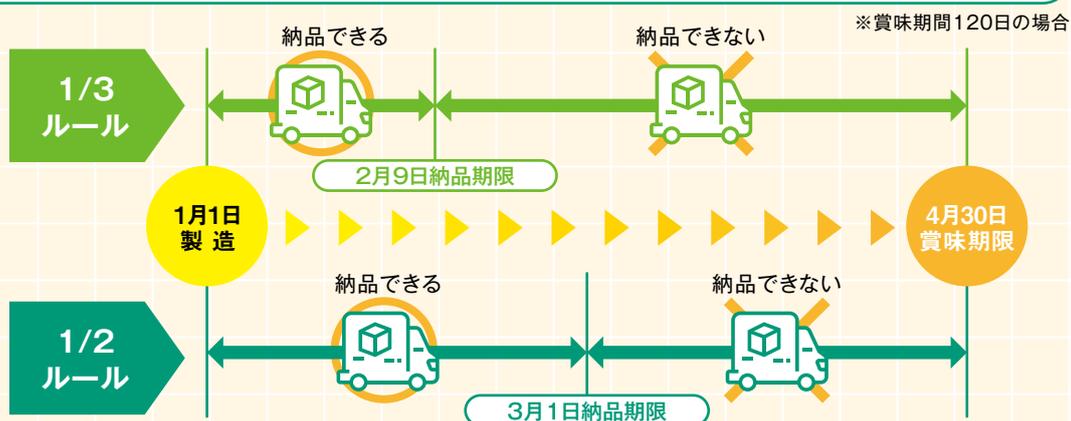
やはり大変だったのは、実際に商品を販売する際に日付を管理する店舗での作業調整です。店舗での作業負担が増えないよう、組合員にご迷惑がかからないようにと変更手続きを進めました。

さまざまな関係者の協力があり、賞味期間120日以上の商品での1/2ルールの運用を始めることができました。商品の販売に関わるサプライチェーン（生産から消費の流れ）全体での食品ロスの削減につながれば嬉しいです。



コープデリ連合会
店舗グロサリー商品部
グロサリーグループグループ長
土谷 誠さん

納品期限の1/3 ▶▶▶ 1/2ルールへの見直し

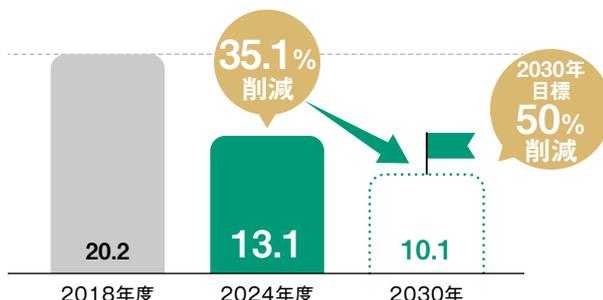


目標の到達状況

2030年目標

事業における食品廃棄物を
2018年度比**50%削減**します。

※単位: kg/千万円(店舗供給高当たりの最終廃棄量)



01 持続可能な生産と消費のために

02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和で健康な生活のために

プラスチック削減に向けた取り組み

■ 使わない・減らすことからはじめよう ～プラスチック使用量の削減

プラスチック製品は手軽で便利な生活必需品ですが、使用後にきちんと処理をしなければ、いずれ海に流れ着き「海洋プラスチック」の問題につながります。

また、処理についても、燃やすことで温室効果ガスを発生させる原因ともなります。

コープデリグループは容器包装プラスチックについて、薄肉化や使用量の削減、詰め替えによる本体容器の再利用の推進、リサイクル素材や再生可能資源の商品への活用などを進めています。

また、コープでは1990年代からマイバッグ利用を呼びかけています。組合員が日常的にマイバッグを利用することでレジ袋の削減につながっています。



詳細はこちら



レジ袋辞退によるプラスチック削減量

673トン

■ 組合員の協力で回収したペットボトルを コープ商品の包材にリサイクル

ペットボトルは単一の素材でできているため、とても良質なリサイクル資源です。

組合員から回収したペットボトルの一部は、コープ商品のパッケージフィルムに生まれ変わって帰ってきています。再生品を活用した商品を組合員が利用することでリサイクルの循環が生まれます。

生協で回収したペットボトルを再生プラスチックの一部に使用した商品は2025年3月には152品まで拡大しています。

このフィルムが使用されるコープ商品のパッケージには、下記の表示を入れています。



生協で回収したPETボトルを、この袋の再生プラスチックの一部に使用しています。



詳細はこちら



組合員から回収したペットボトル

1,220トン

■ 小さなキャップの大きな活躍 ～ペットボトルキャップのリサイクル

コープデリグループではリサイクルの取り組みのひとつとして、ペットボトルキャップを回収しています。ひとつひとつは小さなキャップですが、集まればさまざまなかたちで活躍します。

コープのお店では、原料にペットボトルキャップを97個分(重量からの換算値)使用することで石油由来のプラスチックを30%削減した買い物カゴを順次導入しています。また、ペットボトルキャップを263個分(重量からの換算値)使用したベビーカートも、一部の店舗に導入しています。

ペットボトルキャップのリサイクル資源としての売却益は、一部を世界の子どものワクチン支援に役立てています。寄付については39ページをご覧ください。



詳細はこちら



組合員から回収したペットボトルキャップ

1億2,011万個

※2g/個で重量より換算

環境にも配慮して安全にお届けしたい ～ リサイクル原料を使用した宅配用の保冷容器 ～

コープデリの宅配では、冷蔵品や冷凍品、農産品など品温管理が必要な商品をお届けしています。そのため毎週多くの発泡スチロール製の保冷容器を使用しています。この保冷容器は1回使い切りではなく、組合員にご協力いただき、きれいな状態で回収し、洗浄して再利用しています。

この保冷容器(フタと本体)を、リサイクル原料を50%使用したものに変更しました。リサイクル原料には、使用できなくなった保冷容器も使用し、保冷容器のリサイクルループを実現しています。

これまで、汚れや傷みのひどい保冷容器は、廃棄したあとに別の製品へとリサイクルしていましたが、もう一度保冷容器へと生まれ変わらせることはできないか、ずっと考えていました。今回、技術の進歩とリサイクル容器をつくるお取引先のご協力があり、念願だった循環型のリサイクルを実現することができました。

何度も試作を繰り返し、配合比率を検討しました。その結果、リサイクル原料による容器でも、強度や衛生面での問題をクリアし、組合員の皆さんに引き続き安全に、品質を保ってお届けすることができるようになりました。

多くの資材を使用する宅配の物流部門として、資源循環を一步でも進め、お取引先とともに次世代に笑顔が続く社会の一助になればと思っています。



協栄流通株式会社 物流部管理課
大嶋行男さん



プラスチック使用量の削減見込み

約**339**トン/年

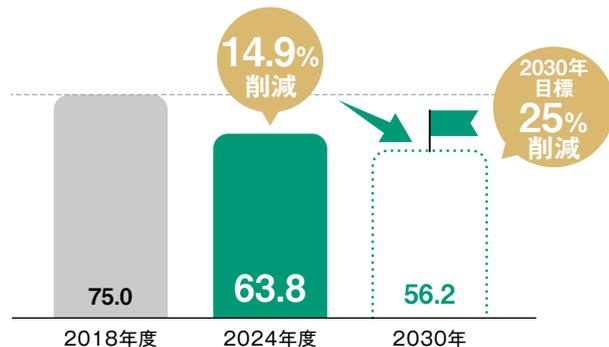
※2023年度の保冷容器導入個数実績から換算

目標の到達状況

2030年目標

事業における容器包装
プラスチック使用量を
2018年度比25%削減
します。

※単位: kg/千万円(供給高当たりの重量)



01 持続可能な生産と消費のために

02 安心して暮らせる地域づくりのために

03 人にやさしく誇りが持てる組織を目指して

04 100年後の地球のために

05 世界中の人々の平和で健康な生活のために

02



安心して暮らせる 地域づくりのために



よみきかせ絵本

「絵本のよみきかせ」のすばらしさを伝える機会につなげるための、新刊絵本20冊のセットの寄贈の様子。

長野県上伊那郡箕輪町の三日町保育園へ絵本をお届けしました。

誰もが安心して暮らし続けられる 地域社会づくりに貢献します

- 1 暮らしと地域を支える生活インフラとしての機能を果たし続けられるよう、事業・商品・サービスの改善を続けます。
- 2 自治体や地域住民・諸団体と連携して、地域の人々が協力し、支えあえる取り組みや仕組みづくりを進めます。
- 3 天災などによる被災地の復興支援活動に取り組みます。災害に備え、防災・減災の取り組みや行政や地域の諸団体との連携を進めます。

親子で絵本を楽しむ時間はたからもの ～みんなのよみきかせ絵本大賞

「みんなのよみきかせ絵本大賞」は、親子にとっての宝物である絵本の読み聞かせ文化を次世代に伝えるための取り組みです。コープデリグループでは普段から配達でお世話になっている幼稚園・保育園にこの企画の趣旨を伝え、呼びかけを行いました。この企画に参加・応募いただいた幼稚園・保育園・児童養護施設などに、新刊絵本を20冊寄贈し、その中から人気の絵本を1冊投票していただきました。2025年10月に投票の結果を受けて人気の絵本1冊が決定し、表彰されます。

この取り組みは、日本生協連から全国の生協に呼びかけがあり、コープデリグループはその想いに賛同し1,232園・施設に絵本を寄贈しました。



寄贈先

1,232園・施設



新入学児童の交通安全と見守りのために ～ランドセルカバー寄贈

地域の道をトラックで配達しているコープデリグループは、新入学の児童に安全に通学してもらうことを目的として、「交通安全ランドセルカバー」の寄贈を行っています。また、ランドセルカバーの寄贈ができない小学校に横断旗を寄贈しています。横断旗は1,854本を485校へ寄贈、子どもたちの登下校時等に安全に横断歩道を渡れるよう、交通誘導を行う際に使用されます。



ランドセルカバー寄贈校数・枚数

743校 4万2,067枚



負けとられん！能登を笑顔に ～コープデリグループの能登半島支援

2024年元日の「能登半島地震」に加え、9月の記録的豪雨により土砂崩れや河川の氾濫が起きるなど、能登半島では甚大な被害が続けて発生しました。

1月の地震、9月の豪雨災害に対してそれぞれ緊急募金を実施し、組合員より合計7億4,410万9,312円が寄せられました。(募金について詳しくは44ページ)

コープデリグループでは震災発生後から全国の生協とともに、被災地域の支援を実施しました。また、コープいしかわの業務支援のために4月末から1年間、3人の職員がコープいしかわに出向し、宅配センターで配達などの業務を担っています。

詳細はこちら



組合員さんに「会話をしてくれるだけで良いんだよ」と言われ、改めて会話の大切さに気付かされました。自分の存在や会話の時間が、少しでも被災された組合員さんのホッとできる瞬間になれたらうれしいです。



コープいしかわ
のとセンターへ出向
森川淳さん



コープみらい

健康寿命の延伸やフレイルの予防につなげる ～歩行年齢測定会の実施

「フレイル」とは、年齢とともに心身の活力が低下し、病気にならないまでも介護状態となるリスクが高くなった状態のことをいいます。

コープみらいでは、交流の場づくりとくらしに関する情報提供を通じて、中高齢者の健康維持・フレイル予防の啓発につなげるために、歩行年齢測定会を地域で開催しています。

コープみらいのお店やコープみらいフェスタのほか、包括連携協定をもとにした自治体でのイベント、各地域のコープみらいブロック委員会主催のイベントなどで開催しています。



消費者の意見を取り入れたお店づくり ～買い物カゴ投票

コープみらいでは、消費者とお店をつなぐ新たなナッジ型コミュニケーションとして、世界自然保護基金ジャパン(WWFジャパン)が考案した「買い物カゴ投票」の実証実験を行いました。この取り組みはコープみらいが検討するサステナブルを推進する案について組合員に問いかけ、買い物後にカゴを返却する際、「YES」か「NO」で回答・投票してもらう仕組みです。

お肉のノントレーの拡大、環境配慮商品のコーナー化、店内の一部照明を消した省エネ策などについて投票を行い、その結果を受けて施策を実行しました。投票を紹介する動画は再生回数530万回を超え、大きな反響を呼びました。



WWFジャパン

コープみらいの概況

(2025年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープみらい
住所	〒336-8523 埼玉県さいたま市南区根岸1-5-5
電話番号	048-864-1181
理事長	熊崎 伸
設立年月日	2013年3月21日
組合員数	381万8,955人
組織率	27.4%

出資金	728億8,561万円
事業高	4,334億2,816万円
正規職員人数	3,094人
パート・アルバイト職員在籍人数	1万175人
宅配センター数	76センター
店舗数	124店舗
福祉事業所数	56施設



いばらきコープ

どきどき収穫祭2024

～いいものあっぺ いっぱいあっぺ いばら「季」の味～を開催

11月9日(土)、いばらきコープ・JA全農いばらき共催で「どきどき収穫祭2024～いいものあっぺ いっぱいあっぺ いばら「季」の味～」をポケットファームどきどき茨城町店駐車場特設会場で開催しました。この収穫祭は、生産者と消費者が互いに収穫を喜び合い、協力しながら地産地消をすすめていくことを確認し合う場です。地元の生産者をはじめお取引先による試食や販売、いばらきコープのSDGsクイズラリーなど盛りだくさんの内容で、多くの方にご来場いただきました。



バケツで稲を育てる田んぼのがっこう ～おむすびレンジャー

いばらきコープでは、JA全農いばらきにご協力いただき「田んぼのがっこうおむすびレンジャー」を開催しました。親子でバケツで稲を育てる体験を通して、生産者との交流を深め、「たべる、たいせつ」を学ぶ取り組みです。

5月には親子でバケツに土と水を入れて泥土をつくり、苗を植えつけました。7月にバケツ稲を持ち寄り、育成状況の点検。9月にはバケツ稲を刈り取って持ち寄り、昔ながらの手作業ですりこぎやガラス瓶を用いて脱穀～もみすり～精米を体験しました。

参加者からは「稲の成長を毎日観察できて、子どもたちと一緒に楽しめました」などの声をいただきました。



いばらきコープの概況

(2025年3月20日現在)

名称	いばらきコープ生活協同組合
住所	〒319-0102 茨城県小美玉市西郷地1703
電話番号	0299-48-3243
理事長	木村 千秋
設立年月日	1971年10月24日
組合員数	41万964人
組織率	32.8%

出資金	144億8,155万円
事業高	441億4,809万円
正規職員人数	491人
パート・アルバイト職員在籍人数	834人
宅配センター数	12センター
店舗数	5店舗
福祉事業所数	5施設



とちぎ"コープ"

視覚障がい者ととも歩くパートナーを支援 ～盲導犬育成支援募金

9月5日(木)、公益財団法人「東日本盲導犬協会」(宇都宮市)において「盲導犬育成支援募金」の贈呈式を行いました。1頭の盲導犬を育てるためには、約500万円のコストが必要です。しかし、盲導犬の育成には、公的な助成が少なく、必要な費用の9割以上が募金などの支援によってまかなわれています。

とちぎコープでは2000年から「盲導犬育成支援募金」に取り組み、毎年多くの組合員からお預かりした募金を贈呈しています。贈呈した2023年度の募金額は105万4,605円(累計:5,086万6,831円)でした。



児童たちの将来の夢や目標につなげる ～宮っ子『夢』教室

宇都宮市が取り組む、宮・未来キャリア教育「宮っ子『夢』教室」に協力して、9月12日(木)、コープ鶴田店の店長と店舗職員が講師となり出前授業を実施しました。

店長や職員が、お店の様子や仕事の内容をスライド写真を使って紹介したり、品出し、発注、お客様が買いやすい売り場作りなどについて説明しました。「商品の鮮度管理は何に気を付けているのですか?」「店長はどんな仕事をしているのですか?」などの質問に答えました。

児童からは「大変さや、やりがいについて知ることができた」「仕事につくことに楽しみが生まれた」などの感想が寄せられました。



とちぎコープの概況

(2025年3月20日現在)

名称	とちぎコープ生活協同組合
住所	〒321-0195 栃木県宇都宮市川田町858
電話番号	028-634-5115
理事長	塚原 政雄
設立年月日	1973年6月29日
組合員数	28万4,848人
組織率	34.2%

出資金	88億4,613万円
事業高	303億7,814万円
正規職員人数	278人
パート・アルバイト職員在籍人数	588人
宅配センター数	7センター
店舗数	4店舗
福祉事業所数	—



コープぐんま

子どもたちの安全をともにつくる ～子ども交通安全教室

コープぐんまでは、地域の交通安全に貢献するため、コープデリ宅配の職員による園児向けの「子ども交通安全教室」を開催しました。

コープデルのキャラクターほぺたんの人形を使って、楽しみながら交通安全を学びました。子どもたちはコープのトラックの運転席に乗り死角においてある人形がトラックから見えないことを実感したり、シートベルトを付けないことで人形が転がってしまう様子を見るなどして、「車の近くは危ないね」「シートベルトをしないとケガしちゃうね」との声があがっていました。



笑顔の明日を協同の力で実現 ～未来つながり助成

「組合員のくらし」と「地域ニーズ」を協同の力で実現する社会を創っていくため、コープぐんまができる社会貢献の一つとして、県内で活動する団体へ助成を行っています。活動を支援し地域の団体とのつながりをつくることで、ともに活動できる環境を達成します。

2024年度は県内で活動する10団体へ助成金を贈呈しました。助成金は団体の活動資金として活用いただき、地域住民と組合員のよりよいくらしづくりに役立てていただきます。

未来つながり助成は2001年からスタートし、寄付は199団体、寄付金は1,048万円となりました。



コープぐんまの概況

(2025年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープぐんま
住所	〒376-8523 群馬県桐生市相生町1-111
電話番号	0277-52-7711
理事長	大貫 晴雄
設立年月日	1956年4月23日
組合員数	35万7,767人
組織率	38.8%

出資金	63億4,179万円
事業高	346億6,768万円
正規職員人数	352人
パート・アルバイト職員在籍人数	915人
宅配センター数	8センター
店舗数	8店舗
福祉事業所数	4施設



コープながの

田んぼのがっこうで国際貢献 ～国際協力田運動

「国際協力田運動」はJA長野県グループが進める国際貢献活動で、コープながのは、この取り組みに参加して22年目になります。県内の休耕地などを活用して米を作り、食料不足に苦しむマリ共和国に送っています。

コープながのは毎年、安曇野市内のJAあづみの国際協力田で田植え企画を開催して、お米づくりに協力しています。5月に組合員が田植えをした田んぼから収穫できたお米は約570kgになりました。12月の国際協力田支援米発送式では、米袋に絵や現地語のバマラ語のメッセージを書いて、お米を発送する準備をしました。



買い物にお困りの方へお店への送迎サービス ～お買い物サポートカー

2024年11月から高齢者を中心とした、移動手段がなく、お買い物に不自由を感じている方向けの店舗への送迎サービス「お買い物サポートカー」の本格運用を始めました。

毎週決まった曜日・時間に利用者宅からコープ長野稲里店まで送迎する登録制サービスです。お買い物時間は約50分間あり、ゆっくりお買い物ができます。

利用者からは「買い物に行けるようになってよかった」「車の中の会話が楽しく、サポートカーはとてもいい気分転換」などの声をいただいています。



コープながのの概況

(2025年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープながの
住所	〒388-8555 長野県長野市篠ノ井御幣川668
電話番号	026-261-1200
理事長	丸山 辰明
設立年月日	1992年9月21日
組合員数	34万2,769人
組織率	40.0%

出資金	136億3,545万円
事業高	463億4,560万円
正規職員人数	450人
パート・アルバイト職員在籍人数	556人
宅配センター数	12センター
店舗数	2店舗
福祉事業所数	9施設



コープデリにいがた

酪農生産者へ未使用タオルを贈る ～まごころタオル

牛から乳を搾る際に清潔さを保ち、牛が病気にならないように一頭一頭個別の未使用タオルを使うため、酪農家はたくさんのタオルが必要になります。新潟県内で育ったおいしい牛乳に対して応援と感謝の気持ちとして生産者に未使用タオルをお届けする取り組みを行っています。

11月16日(土)魚沼地域の酪農生産者へ組合員から寄せられた「まごころタオル」をお届けしました。組合員から3,214枚の「まごころタオル」が寄せられ、組合員からのメッセージも感謝の気持ちとして一緒にお届けしました。



食品ロスの削減と生活困窮の方々を支援 ～白根保健生協とのフードドライブ

7月11日(木)新潟グロスアリー集品センターにおいて、県内生協の仲間である白根保健生協へフードドライブ用の食品・日用品をお渡ししました。白根保健生協は組合員にフードドライブと呼び掛けています。コープデリにいがたへも声がけがあり、2022年、2023年に続いてその要請に応じて協力しました。

お渡しした食品や日用品は新潟市南区社会福祉協議会の「ひとり親世帯への生活支援事業」で必要とされる方々に提供されました。



コープデリにいがたの概況

(2025年3月20日現在)

名称	生活協同組合コープデリにいがた
住所	〒950-1194 新潟県新潟市西区山田2309-7
電話番号	025-201-5550
理事長	登坂 康史
設立年月日	2022年3月21日
組合員数	24万3,660人
組織率	26.5%

出資金	59億9,299万円
事業高	289億3,249万円
正規職員人数	215人
パート・アルバイト職員在籍人数	288人
宅配センター数	8センター
店舗数	—
福祉事業所数	—

SDGs 重点課題

01

持続可能な生産と消費のために

02

安心して暮らせる地域づくりのために

03

人によさしく誇りが持てる組織を目指して

04

100年後の地球のために

05

世界中の人々の平和で健康な生活のために

03



人にやさしく誇りが持てる 組織を目指して



1人1人の人権・多様性が尊重され、
誰もが安心して働ける職場づくりを進めます

1 多様性が尊重され、それぞれの個性や能力に応じて活躍できる職場をつくります。

2 ジェンダー平等が実現され、性差に関係なく職員が活躍し役割発揮できる職場をつくります。

職場で輝く職員

コープデリグループのグループ報
(職員向け冊子)では、働く職員
にスポットを当て「キラリビト」
として毎月紹介しています。
2024年9月号掲載

とちぎコープ 岡千秋さん

将来のキャリアビジョンの明確化につなげる ～生協内インターンシップ

若手職員が将来の働く姿を具体的にイメージし目標に向かう道筋を描けるように、生協内インターンシップを実施しています。他部署の仕事を体験・理解し、やりがいを体感することで、職員一人ひとりが自律的に将来のキャリアを考えることができる環境づくりを進めています。

参加した職員からは「業務の多様性を実感し、視野が広がった」「将来のキャリアビジョンが明確になった」などの声があがっています。



インターンシップ実施人数
33部署

131人

家族の働く姿にふれて絆を深める ～子ども参観日

「子ども参観日」は、家族の働いている姿を見て仕事を体感することで、生協や仕事への理解を深め、コープのファンになってもうらうことを目的に開催しています。2024年度からは職員の孫の参加も開始しました。職員自身にとっても、家族との絆を深めるとともに、仕事への誇りをさらに感じ、モチベーションを上げる良い機会となっています。



参加したお子さんからの声

ママの働く姿が見られて嬉しかったです。
ママカッコ良かった！

父が色々な人から頼りにされ、
信用されているのを見てもカッコイイ
なあと思いました。

おばあちゃんは楽しそうに仕事
をしていました。これからは体
気をつけて仕事して欲しいです。

日々の仕事を通してはぐくむ、イイネッ!! ～エピソードブック

コープデリグループには、一人ひとりが前向きに日々の仕事に取り組むための行動指針があります。そして、行動指針に沿った職場の仲間のすばらしい行動に職員同士で「イイネ！カード」を贈り合っています。

また、日々の仕事の具体的な事例を通じて、理念、ビジョン、行動指針を具体的に理解するためのツールとして、それらの行動に伴うエピソードを集めたエピソードブックを2015年度から発行しています。

組合員とのエピソード、職員同士の絆、喜ばれた事例に加え、失敗を乗り越えた事例などを共有することで人に優しく、誇りが持てる組織をはぐくみます。



04



100年後の地球のために



海岸清掃活動

いばらきコープ「海のがっこう」、コープぐんま「ネイチャークラブ」の合同企画として、茨城県東茨城郡大洗町で海岸清掃を行いました。海岸清掃の後は、クイズ形式で海のごみに関する学習を行いました。

再生可能エネルギーの利用・普及を進め、地球温暖化対策を進めます

1

事業から排出される温室効果ガスを、2030年に2013年度比60%削減します。
2050年には温室効果ガス排出量実質ゼロを目指します。

2

再生可能エネルギーによる発電を増やし、調達電気の排出係数を低減します。

100年後の地球のためにともに学ぶ ～コープデリのエコ活

[詳細はこちら](#)


この地球を次世代へつなげるためには、現在起きていることを知り、今何をすべきかを考えることがとても重要です。

「温室効果ガス(特にCO₂)」「使い捨てプラスチック」「食品ロス」の3つの問題をテーマとした環境の取り組み「コープデリのエコ活」をはじめとして、環境について学び実践するための学習会や体験の機会をさまざまな形で提供しています。特に、子どもたちが楽しみながら身近な環境を知り、学び、そしてこれからの地球について考えるきっかけとなるように、森のがっこう、川のがっこうなどのがっこうシリーズやネイチャークラブ、エコたんけん隊など、地域の中で体験できる企画を大切にしています。



再生可能エネルギーをコープの施設でつくる ～太陽光発電設備の設置

コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標の達成に向け重点的に取り組む3つの柱の1つとして、再生可能エネルギーの創出と使用による電気由来のCO₂削減に取り組んでいます。宅配センターや店舗、物流センターなどの屋上への太陽光発電設備の設置を進め、発電された電気の一部をコープデリグループの施設で使用しています。また、2025年度は新たな試みとして物流施設の駐車場へソーラーカーポートの設置を進めています。

2024年度は11施設に新たに設置し、発電能力(設備容量)が1,080kW増えました。



コープ坂戸薬師町店

太陽光発電能力(設備容量)

11,675kW

2030年温室効果ガス削減計画の具体化 ～目標達成のためのロードマップを策定

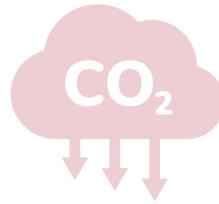
コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標(2013年度比60%削減)の達成に向け2023年度から2030年度までの期間に重点的に取り組む施策を計画化したロードマップを策定しました。

目標達成に向けて「電気使用量の削減」「電動化を主とした車両燃料の低炭素化」「再生可能エネルギーの創出と使用の拡大」を施策の3つの柱に設定し、推進しています。

	2024年度実績	2025年度計画
電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ● 宅配センター統廃合による効率化 ● 照明器具のLED化 ● 自然冷媒の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ● 冷蔵・冷凍・生産加工機器の更新 ● 自然冷媒の導入
車両燃料低炭素化	<ul style="list-style-type: none"> ● 車両EV化56台、車両HV化22台 	<ul style="list-style-type: none"> ● 車両EV化46台、車両HV化5台
再エネ創出・使用	<ul style="list-style-type: none"> ● 自家消費太陽光発電11施設の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自家消費太陽光発電2施設の設置

お店のエネルギーをよりいっそうエコに ～環境に配慮したお店づくり

コープデリグループでは、新店の開店や店舗の改装といったタイミングで、よりいっそう環境に配慮したお店づくりを進めています。たとえば、エネルギー効率の高い自然冷媒を使った食品ショーケースの導入では、温暖化への影響をおさえながら、一般的な冷媒と比べて、電気使用量を年間約20%削減できます。また、食品ショーケースに扉を設置したり、照明のLED化、反射率の良い床材の使用による照明の効率化などに取り組んでいます。



自然冷媒導入店舗数

9店舗

食品廃棄物から電気をつくる ～バイオガス発電によるリサイクル

コープデリグループでは店舗の食品廃棄物のリサイクル率は2024年度93.2%と、食品リサイクル法に基づく再生利用等の実施率目標65%(食品小売業)を大きく超えています。

リサイクル方法のひとつ「バイオガス発電」では、食品廃棄物を微生物の働きで発酵させ、発生したメタンガスを発電用の燃料として活用します。発電された電気は、全国の生協の電力事業を担う日本生活協同組合連合会の子会社(株)地球クラブを通じて、コープデリグループの店舗をはじめとした各施設や、コープデリでんき「再生可能エネルギー100%メニュー」の電気として契約した組合員のご家庭に届けられています。



食品リサイクル率

93.2%



Interview

温室効果ガスの削減に向けて ～ 車両燃料の低炭素化(EV導入)～

コープデリグループでは2030年温室効果ガス削減目標の達成に向け重点的に取り組む3つの柱の1つとして、電動化を主とした車両燃料の低炭素化を掲げています。

宅配のトラックをはじめ合計8,000台以上の車両を運行していますが、2024年度はグループ全体で56台の電気自動車(EV)の導入を進めました。おもに営業活動等で使用する軽自動車の入れ替えを進めながら、EVトラックの導入も順次開始しています。

コープデリグループとしてCO₂削減の一環として、EV導入を進めています。すでにいばらきコープ、とちぎコープでEVトラックを導入しています。コープみらいでも普通免許で乗れるEVトラックが発売になったことから、導入に踏み切りました。

現在、宅配センターで働く職員の多くは普通免許でトラックを運転しています。そこで、EVでかつ普通免許でも運転できるトラックを探していました。まずは実験導入となりますが、今回導入してみた結果を受けて、今後の拡大についても検討していきます。



コープデリ生活協同組合連合会
宅配運営企画部
ウイークリーコープ課 企画担当
横川幸夫さん



EV導入台数
(コープデリグループ累計)

148台

職員の声

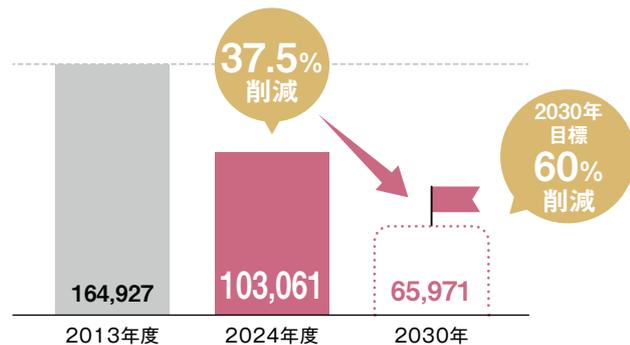
運転してみても静かなのに
びっくりしました。

EVトラックなんですよと組合員さんに伝え
ると、環境にも優しくていいわねと言われ
会話が弾みます。

目標の到達状況

2030年目標

事業から排出される
温室効果ガスを
2013年度比**60%削減**
します。 ※単位:t-CO₂(CO₂排出量)



05



世界中の人々の平和で 健康な生活のために



世界から飢餓や貧困をなくし、
世界平和を実現できる取り組みを進めます

- 1 飢餓や貧困をなくし、世界の子どもたちを支援する活動を進めます。
- 2 核兵器廃絶、被爆・戦争体験継承の取り組みなど、平和な社会を目指す活動を進めます。

ハッピーミルクプロジェクト

ハッピーミルクプロジェクトで支援しているコートジボワール共和国の子どもたち。2023年にコープデリグループの役職員が現地視察に訪れました。

ペットボトルキャップや不要な衣類で支援 ～世界の子どもにワクチンを

子どもの命を脅かす感染症は、開発途上国ではいまだに猛威をふるい、ワクチンがあれば助かる小さな命が1日に4,000人も失われています。コープデリグループは組合員から回収したペットボトルキャップをリサイクル資源として得た売却益や、株式会社スクロールとともに実施している衣料品回収プロジェクトによる収益の一部を、認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会(JCV)に寄付しています。

2024年度のペットボトルキャップ回収による寄付金額は240万2,300円、衣料品回収プロジェクトによる寄付金額は248万1,500円でした。これはポリオワクチンに換算すると24万4,190人分となります。

ペットボトルキャップ回収量については22ページをご覧ください。また、衣料品回収プロジェクトではJCVのほかに、認定NPO法人Learning for Allへ244万3,000円を寄付しています。



©JCV

寄付によってポリオワクチンを接種できる子どもの人数

(ポリオワクチン1本20円で換算)

24万4,190人



詳細はこちら



コープの牛乳で子どもたちを笑顔に ～ハッピーミルクプロジェクト

コープデリグループは、2008年からコープの牛乳の売り上げの一部をユニセフに寄付し、アフリカの子どもたちの栄養改善を応援する「ハッピーミルクプロジェクト」に取り組んでいます。2020年度からは、西アフリカのコートジボワール共和国を支援しています。

栄養不良などにより、命の危機にさらされている子どもたちを守るために、栄養改善の拠点をつくり、母親たちへの栄養・育児の知識を広げる等、子どもたちの栄養改善を進めています。2024年度の寄付金は2,201万5,567円となりました。



寄付額累計

3億938万7,163円



Message

ハッピーミルクプロジェクトによって、コートジボワールの母親たちの栄養知識の向上と子どもたちの栄養改善につながっていることに感謝申し上げます。現地の母親たちの意識が変わりつつあるとの報告も届いています。ハッピーミルクプロジェクトを通じて日本とコートジボワールの関係がより良くなることを願っています。

コートジボワール共和国

イポ・ボリエ デジレ ウルフラン 駐日大使





コープみらい

「コープみらいピースアクション」



3月1日(土)、平和の大切さを次世代に継承し、「知り、学び、伝える」コープみらいピースアクションを開催しました。開演冒頭では、日本被団協の田中熙巳代表委員からのサプライズビデオメッセージがあり、プログラムでは俳優の紺野美沙子さんによる朗読が行われました。また、平和を願う地域の組合員や、大学や高校をはじめとした各団体の展示を通じて、平和の大切さについて学ぶ機会とし、コープみらいの平和への取り組みを紹介しました。

のべ497人が参加し、参加者一人ひとりが「平和」について深く考える貴重な一日となりました。

いばらきコープ

2024ピースアクションinいばらき夏

8月25日(日)茨城大学水戸キャンパスでピースアクションinいばらき夏が開催されました。「~つないでいこう、平和の輪~」をテーマに70名を超える参加がありました。

ヒロシマのピースアクションに参加した組合員家族が、実際にみて、聞いて感じたこと、想いを自分のことばで伝えました。そのあと参加者全員が自分に今できること、平和への想いをこめて「わたしの平和宣言」を力強く発表しました。そのほか、大学生やピースアクションin平和スタディツアー参加者などによるパネルディスカッションや、平和についての講演が行われました。



とちぎコープ

宇都宮空襲戦跡めぐり



宇都宮中心部に残る「空襲・戦争の傷跡」を実際に自分の目で見て感じ取り、戦争の悲惨さや平和の大切さについて考える企画として、10月14日(月)と11月4日(月)の2回にわたり開催しました。

当日は、枝病院門柱→松が峰教会→宮崎駿さん疎開先→大いちょう→浄鏡寺→二荒山神社防空壕跡をコースに、うつのみやシティガイド協会の案内で空襲の戦跡をめぐりました。また、「宮のかたりべ」の方に戦跡の数箇所です宇都宮空襲の物語や民話を話していただきました。



参加者より「宇都宮空襲のことは聞いたことはあったが内容は知らなかった。今日歩いて実際に戦跡を見て戦争の怖さをあらためて感じました」などの感想をいただきました。

コープぐんま

子どもたちによる「ピースクラブ」

コープぐんまでは、年に5回のカリキュラムで、子どもたち同士で平和について学ぶピースクラブを開催しています。

2024年度は第2回ピースクラブで東京江東区の東京大空襲・戦災資料センターの取材・見学とピースウォークを行いました。子どもたちは積極的に取材をし、体験者やガイドの話に耳を傾け、第3回には取材内容をもとに「ピースクラブニュース」を作成しました。作成したピースクラブニュースは宅配ご利用の組合員に配付したほか、店舗での掲示と持ち帰り用の新聞設置を行いました。

ピースクラブ
ニュースは
こちら →



コープながの

「ヒロシマ・ナガサキ 原爆と人間」パネル展



コープながのでは、毎年、戦争を知らない若い世代にも戦争の悲惨さや、原爆の恐ろしさを知り、平和の大切さを考える機会としてもらいたいとの思いを込め、「ヒロシマ・ナガサキ 原爆と人間」パネル展を企画しています。

日本被団協作成の「ヒロシマ・ナガサキ 原爆と人間」パネルは、原爆が投下された後の広島・長崎の様子を写した写真や絵で構成されており、原爆の被害の実相を伝えています。また、パネルは県内の希望する学校への貸し出しも行って、次世代への継承に役立てています。

コープデリにいがた

2024ピースアクションin NIIGATA 第35回新潟県生協連平和集会

広島に原爆が投下されてから79年となる8月6日に「2024ピースアクションin NIIGATA 第35回新潟県生協連平和集会」が開催されました。沖縄の今を描いた映画に込めた平和への願いについての講演会や参加者とのディスカッションなどが行われました。

ホール入口には各生協の平和企画展示のコーナーを設置し、沖縄県生協連から平和パネルにご協力いただきました。コープデリにいがたは、組合員から寄せられた「平和へのメッセージ」を木に飾り「平和ツリー」を作成しました。



サステナビリティデータ

Sustainability DATA

飼料用米の取り組み概況

	供給高(億円)	飼料用米重量(トン)	田んぼ面積(ha)
豚肉	112.8	4,272	712
牛肉	1.2	116	19
鶏肉	2.5	73	12
鶏卵	17.7	1,024	171
合計	134.2	5,485	914

産直の概況

	産地・生産者団体数	産直供給高(億円)	産直構成比(%)
農産物	445産地	311.6	50.3
畜産	34団体	218.9	61.7
米	25団体	151.1	71.4
卵	37養鶏場	77.3	84.4
牛乳	5産地	4.4	2.3
水産	14産地	20.0	4.7

規格外・余剰農産物供給高

商品名	内容	供給高(億円)
規格外 (ふぞろい・ハネツコ・天候被害果)	形の悪い、大きさが規格外、少しキズがついているなど、食べるのには問題ない農産物を農家も組合員も笑顔になれるちょっとだけお得な価格で販売しています。	56
もったいないセット	宅配では不良などに備えて、予備品として産地・取引先から多めに農産物を入荷しています。使わず余った農産物を無駄なく召し上がっていただくために、セットにして販売しています。	0.2
産地支援セット	異常気象による天候被害果や豊作で余ってしまった野菜をセットでお届け。ちょっぴりお買い得で、農家も組合員もお互い笑顔になれる野菜セットです。	0.7

■ 認証マーク付商品供給高

認証・認定 マーク	認証・認定内容	供給高 (億円)
有機JAS	一定の基準で農薬や化学肥料を使用しないで作られた農産物とその製品です。	41.1
MSC	水産の資源を枯渇させないよう、持続可能で適切に管理された漁業でとられた水産製品です。	63.7
ASC	環境と社会に配慮した責任ある養殖場で生産された水産製品です。	
アラスカのRFM	アラスカの責任ある漁業管理のもと持続可能な漁業で漁獲された水産物です。	
BAP	責任ある養殖管理の下で育てられた水産物です。	
MEL	水産資源の継続的な利用を図るため、資源管理と生態系の保全に取り組む日本の生産者を認証しています。	

認証・認定 マーク	認証・認定内容	供給高 (億円)
レインフォレスト・アライアンス	人と自然にとってより良い未来を推進する方法で栽培されたことを意味しています。ra.org/ja	20.0
フェアトレード	発展途上国の農産物や製品などを不当に安く買うのではなく、農家の生活が成り立つよう考慮した「フェア(公正)な価格」で継続的に輸入し消費する取り組みです。	0.8
RSPO	「持続可能なパーム油」の生産・製造・流通・消費を応援する商品です。	23.8
FSC	責任ある森林管理をしている林業者を応援し、世界の森林保全貢献につながる木材製品です。	401.8
エコマーク	生産から廃棄を通して環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品です。	333.5

■ 寄付金付き商品等の状況

募金・寄付・取り組み名	寄付先	寄付金額(円)	寄付金の活用内容
ハッピーミルクプロジェクト*	日本ユニセフ協会	22,015,567	「ユニセフ・コートジボワール共和国指定募金」 「ユニセフ・アフリカ栄養危機緊急募金」
佐渡トキ応援お米プロジェクト	佐渡市トキ環境整備基金	3,450,558	佐渡市が行う「生きものを育む環境づくり」や 「環境にやさしい佐渡米づくり」
美ら島応援もずくプロジェクト	伊平屋村美ら島応援基金	2,163,698	島の海岸清掃など自然環境の保護や、もずく産 業の活性化
grow(グロー)	grow基金	1,256,496	メキシコの農園労働者への医療サービス提供 や子どもたちの教育などの支援
北カリマンタン マングローブ基金	北カリマンタンマングローブ基金	483,921	エビの産地であるインドネシア北カリマンタン 州の環境と未来の水産資源を守るマングロー ブ植樹活動
インドネシア・エビ養殖業 改善プロジェクト	WWFジャパン	882,258	(WWFジャパン、WWFインドネシアとBOMAR社 の協働による) 環境と社会に配慮した責任ある エビ養殖業への転換の取り組みを支援
コアノンスマイルスクール プロジェクト	日本ユニセフ協会	1,113,032	アンゴラ共和国の子どもたちが楽しく学べる環 境づくり(学校のトイレ・水の整備、教師の育成)
CO-OP×レッドカップ キャンペーン (2024年10月1日~11月10日)	国連WFP協会	846,002	ミャンマー連邦共和国の子どもたちに学校給食 を届ける取り組み
洗剤環境寄付キャンペーン	WWFジャパン	435,623	インドネシア各地の小規模パーム農園の持続 可能な生産などを推進するプロジェクトを支援
パラノルディックスキー 応援キャンペーン	日本障害者スキー連盟	235,012	日本障害者スキー連盟ノルディックスキーチ ームの次世代を担うジュニアチーム(10~20代) の合宿・国際大会遠征支援など
スマイルグリーンプロジェクト	WWFジャパン	683,850	ブラジルのアトランティックフォレストで実施す る、森林再生などの活動を応援
ピンクリボン運動 (2024年9月1日~10月20日)	認定NPO法人J.POSH (日本乳がんピンクリボン運動)	222,712	乳がんに対する啓発活動や患者や家族の支援

※この寄付金額には組合員からの募金を含みます

サステナビリティデータ

緊急支援募金の実施状況

(円)

生協名	令和6年能登半島地震 緊急支援募金 (2024年1月8日~3月31日)	台湾東部沖地震緊急支援募金 (2024年4月15日~5月10日)	令和6年能登半島地震 及び能登豪雨災害募金 (2024年9月27日~2025年1月12日)
コープみらい	326,136,668	25,071,020	129,415,465
いばらきコープ	36,223,938	2,514,369	14,556,476
とちぎコープ	25,233,621	1,307,205	10,612,020
コープぐんま	27,155,663	1,538,686	10,168,643
コープながの	73,348,418	4,263,083	26,709,517
コープデリにいがた	44,152,321	2,335,398	20,361,475
合計	532,285,716 ※	37,029,761	211,823,596

※グループ会社による募金を含みます



【令和6年能登半島地震緊急支援募金】
新潟県への贈呈



【台湾東部沖地震緊急支援募金】
日本赤十字社への贈呈



能登の組合員へメッセージ付き
プレゼントを贈る取り組み

会員生協募金・寄付状況

(円)

生協名	ユニセフ募金	ふくしま復興応援募金	平和募金・平和の旅募金	はがき・切手回収 キャンペーン*
コープみらい	41,557,995	16,432,700	1,796,828	20,701,215
いばらきコープ	1,248,637	2,276,054	355,200	2,284,102
とちぎコープ	571,216	529,654	6,200	2,137,732
コープぐんま	1,026,769	716,397	300,348	2,173,717
コープながの	1,578,328	2,454,400	-	11,177,792*
コープデリにいがた	986,823	1,018,883	111,114	2,743,862
合計	46,969,768	23,428,088	2,569,690	41,218,420

※コープながのは、認定NPO法人ハンガー・フリー・ワールドの「書換じハガキ等回収キャンペーン」に取り組んでいます

「組合員の声」受付件数

受付方法	声の経路	件数(件)	前年比(%)
こえのポスト(宅配)	組合員が書いたカードで寄せられる声	36,325	213.4
こえのポスト(店舗)		1,166	84.3
観たこと聴いたことカード	職員が気づいたことを書いたカードで寄せられる声	56,331	85.9
お問合せ案内センター	電話・メールで寄せられた声	26,870	74.2
商品お申し出受付カード	商品に対するお申し出・ご指摘	11,126	90.0
合計		131,818	99.4

商品検査実績

(検体数)

		日本生協連 商品検査センター	コープデリ 商品検査センター	合計
微生物や 食品中に残存する 化学物質等の検査	微生物	1,963	28,445	30,408
	残留農薬	1,780	753	2,533
	残留動物用医薬品	268	72	340
	食品添加物	206	113	319
	カビ毒	3	100	103
	ヒスタミン	24	468	492
	放射性物質	310	523	833
食品の品質や 規格成分の検査	栄養成分・品質	1,630	1,037	2,667
	内容量	129	0	129
	官能	2,605	6	2,611
	品温	0	174	174
食品表示を確認する検査	特定原材料	1,837	410	2,247
	遺伝子組換え	18	44	62
	品種・肉種判別	115	131	246
	産地判別	0	8	8
施設衛生検査		0	173	173
その他(上記以外)		320	320	640
合計		11,208	32,777	43,985

検査内容が重複しないよう、日本生協連の商品検査センターと連携して取り組んでいます

サステナビリティデータ

リサイクル資源回収量

回収品目	宅配のみ		宅配・店舗				店舗のみ
	商品とカタログのお届け用ポリ袋	商品カタログ・チラシ	飲料用紙パック	ペットボトル・ペットボトルキャップ	食品トレイ	たまごパック	アルミ缶
回収量 (kg)	610,680	41,975,798	971,772	1,460,401	592,257	231,450	190,357
前年比 (%)	98.1	95.4	96.6	102.2	102.5	98.8	100.9

レジ袋辞退率

	コープみらい	いばらきコープ	とちぎコープ	コープぐんま	コープながの	コープデリにいがた	合計
レジ袋辞退率 (%)	85.8	85.7	83.9	83.0	89.2	-	85.7

店舗事業での数値です。コープデリにいがたに店舗はありません

食品リサイクル率

	コープみらい	いばらきコープ	とちぎコープ	コープぐんま	コープながの	コープデリにいがた	合計
リサイクル率 (%)	94.5	100.0	100.0	59.9	75.8	-	93.2

店舗事業での数値です。コープデリにいがたに店舗はありません

ダイバーシティ&インクルージョンの取り組み状況

	コープみらい	いばらきコープ	とちぎコープ	コープぐんま	コープながの	コープデリにいがた	コープデリ連合会
女性職員比率 (%)	20.9	21.3	23.9	30.3	24.9	18.8	30.5
女性管理職比率 (%)	10.8	10.5	8.2	7.8	12.3	0.0	18.3
育児休職 (人)	62	2	11	15	24	13	9
男性職員の育児休職取得率 (%)	94.6	83.0	100.0	87.5	85.7	100.0	83.3
育児時短 (人)	82	9	5	11	16	7	29
子の看護休暇 (人)	147	24	18	14	15	8	42
配偶者出産休暇 (人)	47	4	8	7	7	2	4
障がい者雇用率 (%)	2.86	3.01	2.82	3.44	2.86	3.16	3.78
定年後再雇用 (人)	246	25	1	18	7	21	32

コープデリグループのダイバーシティの推進概況は [こちら](#)



ガバナンス・内部統制

コープデリグループは、ステークホルダーとの協同・連携を重視し、透明性、公正さ、適正さを確保しながら経営の効率性を高め、健全経営を全うすることをガバナンスの目的としています。

コープデリグループにおけるガバナンス

コープデリグループにおけるガバナンスは、会員生協とコープデリ連合会が、経営の透明性、健全性、公正さ、適正さを維持しながら、経営の効率性を高めることを目的としています。

会員生協とコープデリ連合会がそれぞれの「経営責任と経営相互牽制責任」および「役割分担」を明確にして、健全経営を全うします。コープデリ連合会が受託した業務の会員生協から連合会への監督牽制機能が有効に機能するように、理事会をはじめ、各種会議、委員会を運営しています。

コープデリ連合会総会はガバナンスの土台である組織の最高議決機関として、毎年6月に開催し、事業報告や事業計画・予算、役員(理事・監事)選任などの議案を議決します。

業務執行体制

理事会は、コープデリ連合会総会の決定を受けて、戦略的な経営意思決定としての基本政策および業務執行に係る重要な事項について、隔月で開催し、審議・決定を行います。

経営執行の迅速化に対応して、毎週、常任理事会を開催し、コープデリグループの政策・事業・方針・業務運営などに関する重要事項の協議・議決と連帯政策や地域政策、会員生協間の交流を図っています。

監事は、事業の適正さを確保するため、定款および監事会規則・監事監査基準に基づき、監査を実施しています。会計監査は、監査法人と協力しながら進めています。

専務理事の諮問機関として商品・宅配・店舗の3委員会を設置しています。各会員生協の組合員理事で構成し、消費者・組合員としての見識のもと、各事業に関する政策協議を行います。

サステナビリティ推進体制として、コープデリ連合会では「コープデリグループのSDGs重点課題~2030年までの長期目標と中期方針~」に沿って、課題・目標を常任理事会で確認し、進捗管理を行っています。

コープデリ連合会組織図



7つの体制

1	コンプライアンス体制
2	情報管理体制
3	リスク管理体制
4	効率性確保体制
5	グループ会社など業務適正確保体制
6	監事監査確保体制
7	監事への報告に関する体制

内部統制について

コープデリグループ・コープデリ連合会は、「内部統制に関わる基本方針」を定め、7つの体制の整備を進めています。また運用状況を毎年点検し強化を図っています。

リスク管理については、毎年事業経営に影響を与えるリスクを洗い出し、リスク評価から重点リスクを設定し、対応策の進捗を点検しています。

2024年度は、コープデリグループ全体で690項目のリスクを洗い出し、評価を行い、131項目の重点リスク(月次でのリスク管理)を設定しました。また、「安全運転」「情報セキュリティ」「食品の安全」「コンプライアンス」「人員不足・人材育成」「自然災害」の6つを共通重点リスクとして設定し、進捗管理を進めています。

コンプライアンスの推進について

「コンプライアンスの考え方」「行動指針」「行動規範」を制定し、全体学習(情報セキュリティを含む)を全事業所で実施しています。一方、職員の行動規範に逸脱する行為などに迅速・適切に対応するためにコンプライアンス相談室(ヘルプライン)および公益通報「外部窓口」を設置し運用しています。

危機管理について

重大な事故が発生した場合に、その情報がトップに迅速・的確に報告され、適切に対応できるよう「クライシス・重大事故等対応規程」を整備し、運用しています。また、危機管理に関わる連絡・報告、対策本部の運営、広報などに関わる具体的な手順を整備し運用しています。さらに、不正アクセス等のサイバー攻撃から組織を守ることを目的としたサイバーセキュリティ対策や、個人情報を含む機密情報の保護を目的とした情報漏えい対策など、情報セキュリティの強化を実施しています。

地震・自然災害への対応

地震や台風・風水害・雪害などの大規模災害は、あらゆるステークホルダーに甚大な被害を与える可能性があります。コープデリ連合会では会員生協、グループ会社とともに大規模な災害で被害を受けた場合でも、早期に事業を再開・継続できるよう「事業継続計画書」の補強や、地震や自然災害を想定した訓練、職員の安否確認訓練、無線通信訓練などを定期的実施しています。

コープ(生協)について

コープ(生協)は、消費者一人ひとりが、くらしのさまざまな願いを協同し、実現するために、事業や活動を通して助け合う消費者の自発的な組織です。日本では「消費生活協同組合法」に基づいて設立され運営されています。一人ひとりが「出資金」を出し、事業や活動の「運営」に参加・参画し、「利用」する組織です。

コープ(生協)とは、正式には「生活協同組合」のことです。略称として、「コープ」がよく使われますが、これは協同組合を表す英語のCo-operativeから来ています。

生活協同組合は、農業協同組合、漁業協同組合、労働者協同組合など同じ「協同組合」です。

世界中に多種多様な協同組合があり、国際協同組合同盟(International Co-operative Alliance, ICA)が定めた協同組合の共通のルール「協同組合原則」ののっとして運営

されています。

協同組合は、「共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすため、自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である」と定義されています。

共通のニーズと願いを組合員が共同で所有する事業を通して実現する点や、管理は民主的に行われていなければならないという点が特徴となっています。



出資

組合員一人ひとりが持ち寄る大切な出資金は、安全で安心できる商品づくりや宅配・店舗の運営など組合員の願いを実現するために活用されています。



利用

組合員は、宅配や店舗で商品を購入したり、さまざまなサービスを利用したりします。



3つの柱



運営

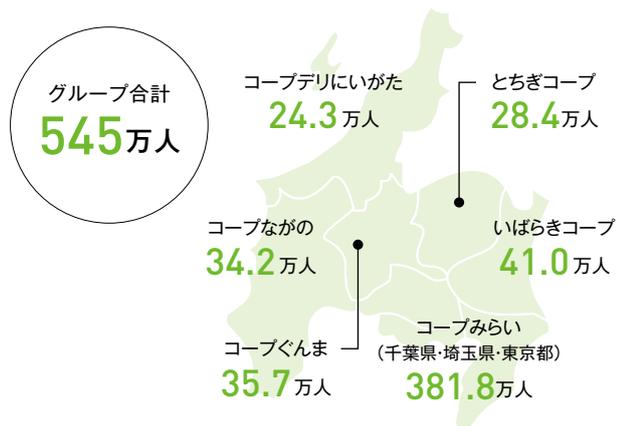
運営の主役は「組合員」です。組合員の声をさまざまな場で受け止め、事業や活動に生かしています。また、各地域で選ばれた組合員の代表である総代は、いろいろな場面で意見を出して話し合い、通常総代会では生協の事業計画や予算などを議決します。

コープデリグループについて

■コープデリグループとは

コープデリグループは、6つの生協(コープみらい、いばらきコープ、とちぎコープ、コープぐんま、コープながの、コープデリにいがた)とコープデリ連合会、そのグループ会社で構成されています。

▶ コープデリグループ会員生協組合員数



■会員生協とコープデリ連合会の関係

コープデリグループの6つの生協は、コープデリ連合会に出資し加盟する「会員生協」として、コープデリ連合会に参加しています。会員生協とコープデリ連合会は、同じ理念とビジョンのもと、それぞれ独立した法人として事業や活動を行っています。

商品・物流・生産・システム・経理・人事教育などの共通基盤を整備し、宅配事業・店舗事業・サービス事業などの本部機能を持つコープデリ連合会を共同でつくり上げています。

コープデリ連合会は関東信越の1都7県、545万人を超える組合員の暮らしを支える生協として日本最大規模の事業連合です。

■コープデリ連合会の概況

(2025年3月20日現在、事業高は2024年度)

名称	コープデリ生活協同組合連合会
設立年月日	1992年7月21日
会員数	6会員
事業エリア	1都7県(千葉県/埼玉県/東京都/茨城県/栃木県/群馬県/長野県/新潟県)
事業高	4,674億8,154万円
出資金	353億3,200万円
職員数	1,290人 (正規職員702人、パート職員588人)
本部所在地	〒336-8526 埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13
TEL	048-839-1371(代表)

■役員体制 (法定役員の常勤役員を中心に記載しています)

(2025年6月現在)

代表理事 理事長	熊崎 伸
副理事長	河田 喜一
副理事長(非常勤)	登坂 康史
代表理事 専務理事	大川 昌彦
常任理事	多田 眞
	川端 浩義
	山口 真司
	飯島 幸治
風間 徹	
常務理事 (機関運営・総合企画・システム管掌)	鳥羽 治明
常務理事(宅配事業本部長)	長島 淳一
常務理事(管理・開発管掌)	成田 章二
常勤理事(福祉事業担当)	圓尾 佐智子
常勤監事	稲生 修

■子会社について

株式会社コープデリ保険センター	株式会社コープデリフーズ	株式会社協同開発
コープデリ酒類販売株式会社	株式会社コープミート千葉	株式会社コープデリサービス
協栄流通株式会社	株式会社コープワーキングサポート	株式会社トラストシップ

コープデリグループの事業と会員生協の活動

■コープデリグループの事業

宅配事業

「つかうほど、じぶんらしく。」をブランドメッセージに、週1回決まった曜日・時間帯にご自宅の玄関先まで、6,000品目以上の取扱アイテムから、ご注文いただいた食品や日用品をお届けする「ウイークリーコープ」、週3日からお弁当や料理キットをお届けする「デイリーコープ」の宅配サービスなどを行っています。



店舗事業

“おいしさと安心を、うれしい価格で。”を事業目標に、スーパーマーケットタイプとミニ店舗が143店舗※、さらにネットスーパーや移動店舗といった業態を展開しています。コープ商品や産直商品、店内加工品など、「コープならではの」こだわり商品をそろえ、魅力的な売り場づくりに取り組んでいます。



※コープデリにいがたに店舗はありません。
※店舗数は2025年3月20日現在

サービス事業

くらしをもっと楽しく、快適に。(株)コープデリサービスを通して、自分らしいくらしの応援をしています。チケット部門は心を動かすエンターテインメントを提供し、くらしのサービス・ハウジング部門は、便利で快適なくらしをサポートします。葬祭部門は故人への感謝とご遺族の新たな生活を支援します。



チケット



くらしのサービス



ハウジング



コプセ(葬祭)

※生協によって取り扱いのないサービスがあります。

福祉事業

コープみらい、いばらきコープ、コープぐんま、コープながのの4会員生協で展開しています。ケアプランの作成、ホームヘルパーの派遣、デイサービスの実施、サービス付き高齢者向け住宅の運営などを通じて、「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」という組合員の願いに応えます。



※生協によって取り扱いのないサービスがあります。
※とちぎコープの福祉事業は、移管先である「社会福祉法人ふれあいコープ」が担っています。

保障事業

CO・OP共済は、生協の事業として組合員の声をベースに、手ごろな掛金、いざという時に役立つ保障内容、わかりやすい手続きといった改善を常に進めながら、組合員とその家族に寄り添い、役立ち続ける事業を目指しています。また、グループ会社の(株)コープデリ保険センターを通じて、さまざまな保障ニーズに対応する保険商品を提供しています。



商品事業

コープデリ連合会は、会員生協組合員から寄せられた声と想いをかたちにしたプライベートブランド(PB)であるコープ商品を日本生活協同組合連合会と共同で開発しています。また産直を通じて、持続可能な農畜水産物の生産を応援しています。自前の商品検査センターは商品の品質を科学の目でチェックしています。



エネルギー供給事業

組合員のくらしと未来にやさしいエネルギーをお届けするために、「再生可能エネルギー100%メニュー」と、より家計にやさしい「ベーシックメニュー」の2つのメニューからなる「コープデリでんき」を組合員に提供しています。その一部はコープデリグループの事業所の太陽光発電施設の電気です。また、一部地域では、経済メリットを追求した都市ガス事業「コープデリガス」を提供しています。

※コープながのでは「ベーシックメニュー」の取り扱いはありません。
※コープデリにいがたにはエネルギー供給事業はありません。
※コープデリガスは地域限定です。



物流・生産

物流部門は、安全、効率、品質を最重点に商品を集品・分荷し、会員生協の宅配センターや店舗に届けています。自動化システムの積極的な導入で、生産性の向上を図っています。

生産部門は徹底した安全管理、品質管理、衛生管理のもと、宅配・店舗向けの精肉商品、店舗向けの惣菜商品・ベーカリー生地を生産しています。グループ会社の(株)コープデリフーズの桶川ミートセンター、桶川QFセンターは食品安全マネジメントシステム「JFS-C規格」の認証を取得しています。



コープデリグループ会員生協の活動

コープでは、くらしの中のさまざまな課題に関心を持ち、一人ひとりの力を寄せ合って協力し合うことで、くらしや地域をよりよくする活動に取り組んでいます。

食の取り組み

安全なものを安心して食べ、健康に暮らしたいという組合員の願いを実現するために、「食」に関するさまざまな取り組みを行っています。取引先を講師とした商品学習会や産地・工場の見学、生産者・メーカーとの交流会、調理など、組合員は関心を持ったテーマについて学んでいます。



地域社会づくりの取り組み

「誰ひとり取り残さない社会」を実現するためには、地域で人と人とのつながりをつくるのが重要です。行政や地域の諸団体と連携し、フードドライブやフードパントリー、地域の誰もが参加できる集いの場の提供、子育て中の人たちのネットワークをつくる子育てひろばなどの活動を行っています。



地球・未来を考える取り組み

地球温暖化や廃棄物、飢餓や貧困、紛争など、国境を越えてつながる問題の解決には、一人ひとりの行動が大切です。家庭での省エネや食品ロスの削減などを学び行動する「コープデリのエコ活」、自然の中で生物多様性などを学ぶ体験教室、平和を考える戦跡めぐり、飢餓や貧困の問題を考えその解決に参加できるハッピーミルクプロジェクトやユニセフ募金など、問題を知り、自分でできることを考え、交流する活動を行っています。



コープデリグループのサステナビリティサイト



コープデリグループのサステナビリティ
Instagram



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

【お問い合わせ先】

コープデリ生活協同組合連合会

サステナビリティ推進部

〒336-8526 埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13
TEL. 048-839-1849 FAX. 048-839-1859



コープみらい いばらきコープ とちぎコープ コープぐんま
コープながの コープデリにいがた コープデリ連合会

コープデリグループ／サステナビリティレポート
読者アンケート

ぜひ、ご意見・ご感想をお寄せください。
来年度の制作の参考にさせていただきます。
(2025年10月31日まで)

